

1. 件名：「東北電力株式会社の地震等に係る新規制基準適合性審査資料作成における品質保証に関する事業者ヒアリング（1）」

2. 日時：令和4年11月10日（木）13時30分～14時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門

岩田安全管理調査官、三井上席安全審査官、佐藤主任安全審査官、
永井主任安全審査官、藤川安全審査官、馬場係員、松末技術参与
東北電力株式会社 発電・販売カンパニー 土木建築部 部長

他7名同 東京支社 課長 他1名

同 発電・販売カンパニー 土木建築部 課長 他5名※

※テレビ会議システムによる出席

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり ※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

・審査資料の品質確保について

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	お願いします。
0:00:03	はい。東北電力の緒方です。本日はお時間をいただきましてありがとうございます。
0:00:08	本日は、10月21日の
0:00:11	審査会合について、そこでコア写真の梁の梁誤りですね。それから、
0:00:18	追加調査2の計画についてご説明させていただきましたが、
0:00:22	その際、コア写真の張り誤りに関していただいたコメントを踏まえまして、
0:00:28	原因の分析、それから、再発防止対策、
0:00:32	そして江藤、女川と東通の過去の
0:00:36	地震津波等の審査資料の確認、
0:00:40	を実施しておりますので、本日はその内容につきましてご説明させていただきます。
0:00:45	資料の方はイトウの方よりご説明させていただきます。
0:00:51	はい
0:00:52	東北電力伊藤です。審査資料の品質確保についてという資料に基づき説明をさせていただきます。
0:01:00	2ページ目、
0:01:03	お願いします1全体概要ということで、本資料のサマリーを記載しております。
0:01:11	1ポツ目の最後ですけれども、当該コア写真の誤りは他の資料への影響がないことを確認しましたと。
0:01:18	2ポツ目ですけれども特重の地質の審査資料について、誤記等確認した結果、コア写真以外については誤りは確認されませんでした。
0:01:31	三つ目ですけれども、写真の誤りについて原因究明を行った結果、外観による識別が難しい画像等について、調査報告書から審査資料への転記に対する、
0:01:43	資料作成、チェック機能の改善が必要と判断しました。
0:01:48	四つめですが東通1号女川2号の既許可の審査資料について、画像等の転記を中心に誤りがないかを確認したところ、
0:01:59	コア写真や音波探査記録の貼り間違い8件、
0:02:04	誤記1件の計9件について誤りが確認をいたしました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:10	なおこれらの誤りについても他の資料への影響がないことを確認しております。
0:02:15	最後再発防止策ですけれども、画像の転記に関わる資料作成チェックルールを追加するとともに、
0:02:22	関係者に審査資料の品質確保の重要性について教育を行い、品質改善を図るということにいたしております。以上が資料の概要になります。
0:02:34	以降詳細について説明をさせていただきます。3ページ目、4ページ目につきましては、前回の会合でご説明をした資料集のところが写真、
0:02:47	誤り2件についての説明になります。
0:02:52	5ページ目。
0:02:54	です。
0:02:55	他の資料への水平展開ということで、当該コア写真が他の資料へ影響していないかという確認の結果になります。
0:03:06	リードの部分になりますけれども、出展元となる調査報告書は正しい柱状図及びコア写真、
0:03:13	記載されておりまして、審査資料の写真のみのあまりであることを確認しましたと。
0:03:20	二つ目ですけれども当該コア写真は他の資料、転記してはなく、基本的に出典元となる調査報告書から転記しているというこため、
0:03:31	同じ写真が他の資料へ展開はされていないことを確認しております。
0:03:36	また、地質断面図であるとか、破碎部やシームの有無については、柱状図に基づき作成することから、その他の二次データへの影響がないことを確認しております。
0:03:48	以上をもちまして今回のコア写真につきまして他の資料への影響はないということを確認しております。
0:03:55	四つ目ですけれども今回の地質、特重の地質し、審査資料一式につきまして
0:04:02	後施工写真以外の号機等の誤りはなくて画像の転記以外の品質維持ルールにつきましては有効に機能していることを確認しております。
0:04:15	6ページ目が今回の誤りに対するし今回の誤りを例にした資料の作成ルールと発生原因の全体像を示したものです。
0:04:25	大きく資料作成段階と品証チェック段階という二段階に分かれておりますが、それぞれ詳細に7ページ8ページに記載しております7ページでまず、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:36	資料作成段階について衛藤。
0:04:40	ご説明をさせていただきます。
0:04:43	資料作成段階というのは一番左に資料作成ルールとありまして、今回であると特重の地質になりますので地質チームで資料を作成することになります。
0:04:55	関係者としてはチームの責任者、あと資料作成者チェック者というものが、1人ずつというわけではないですけども出てきます。
0:05:05	この中で資料作成者の資料作成方法ですけれども、
0:05:09	報告書から、柱状図、コア写真を個別の画像ファイルとしてまず抽出をしますと。
0:05:15	次に進路が記載された資料集の基本フォーマットに合わせて、
0:05:20	柱状図やコア写真を張りつけ、最後に坑口の標高だとかの記事を追記をするという、
0:05:27	できたものに対して資料チェック者がチェックをするという、作業にか。
0:05:32	になります。
0:05:33	これに対しまして今回の誤りが発生した原因が一番右側に書かれてまして、
0:05:39	まずチームの責任者がの原因としましては、資料の論理展開であるとか誤字脱字の確認に重点が置かれて、写真の確認が大阪になった。
0:05:51	ことが原因と考えてます。
0:05:53	次が資料作成者
0:05:56	の原因ですけれども、資料作成者は切り取ったコア写真の深度が張りつけ先の深度となっているかを十分に確認しないまま貼り付けたということが原因です。
0:06:08	最後チェック者ですが、資料チェック者は報告書を見て確認しましたが、写真の文字が小さくて見えないことや、色調や割れ目が似ていて異なる写真だと判別できなかった。
0:06:19	ということが原因として考えております。
0:06:24	続きまして8ページ、品証チェック段階ということでその地質今回の場合であれば地質チームが作成した資料を総括責任者及び事務局、
0:06:34	によって定められたチェック項目に基づきレビューを行うということで、ヒンショウルールで定められているチェックレビューのチェック項目というのが下に記載の1から6項目になります。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:48	ここで今回の画像等については5番目の出典元となる図書等からの引用に誤りがないかというチェック項目が設定をされております。
0:07:01	これに対して今回見逃した原因というのが、二つ考えておりました一つが、
0:07:06	論理展開や誤字脱字等のチェックに重点が置かれて写真のチェックを盛んになったというのが一つ。
0:07:12	もう一つが、コア写真等のチェック画像に対するチェックルールが明確ではなかったという、
0:07:18	ことを原因として挙げております。
0:07:24	9ページが、以上の藤菅資料作成段階から品証チェック段階まで、
0:07:31	関係者ごとに挙げられた原因、五つが9ページの右側に記載をしております。
0:07:38	リードのところになります。文字や数字単位等に対するチェック機能については有効に働いているが、外観による識別が難しい画像等について、調査報告書から審査資料、
0:07:50	への転記に対する資料作成チェック機能の改善が必要と判断をしております。
0:08:00	続きまして10ページにいきましてその他の資料の確認結果ということで
0:08:07	2ポツ目に二つ、2矢羽根目になりますが、東通1号と女川2号の本体審査。
0:08:15	うち地盤地震津波火山の審査資料の最新版。
0:08:21	資料集を含むについて以下の通り確認をしました。ということで一つ目が、写真のように外観による識別が難しい画像、これは、
0:08:30	対象事例として例として挙げておりますがポーリングコア写真、ポアホールカメラ、あと露頭の写真。
0:08:37	音探記録降灰シミュレーションなど、画像だけ見ているとこれが何の画像かわからない。
0:08:44	識別できないもの、これらにつきましては、出典元からの転記が正しく行われているかということを確認をしております。
0:08:52	もう一つですが識別可能な画像、これについては地震動の葉系であるとかスペクトルがありますが、これらについては画像の中に

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:02	何を表しているかという識別できる文字等が含まれておりますので、まずそこを、それによって従来のチェック機能が有効であると考えまして、
0:09:12	正しい画像がそこに貼られているかっていうことをそういう識別記号等で確認をしております。
0:09:22	結果が 11 ページ。
0:09:25	2、一覧表で示しております。
0:09:29	誤り 9 件。
0:09:31	一番、表に示している通り見つけております。
0:09:35	内訳としましてはコアの写真播磨の播磨違いが 5 件、あと音探記録の貼り間違いが 3 件、
0:09:44	あと誤記が 1 件、
0:09:46	となります。
0:09:48	順番に詳細をご説明をさせていただきます 18 ページをお願いいたします。
0:10:05	18 ページまず東通の地質の机上配付資料ですけれども、
0:10:12	この
0:10:13	ボーリング孔につきましては、
0:10:18	左側の 27 メートルから 41 メートルという 15 メートル、15 本分のコア写真を貼らなければいけないところに、14 本分のコア写真を
0:10:30	切り切り取ってこの幅に張りつけていたというもので、一方、
0:10:37	コアの写真が足りなかったという事例です。
0:10:45	続きまして、19 ページが、これも東通、
0:10:51	この地震動の
0:10:53	地下構造の評価の机上配付資料になりますが、
0:10:57	床例は特重の実質と同様に違う深度のところの写真が誤ってはられていたという
0:11:05	ものになります。
0:11:08	続きまして 20 ページ、これも東通地質、
0:11:13	机上配付資料ですが、
0:11:15	これについては、
0:11:17	非常に
0:11:19	情けないというか申し訳ないんですけれども、深度のところ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:23	基本フォーマットの進路のところが、なぜか 80 メートルのところが 101 メートルという記載。
0:11:29	に載っていても、
0:11:31	この時にもちょっとここ、
0:11:33	これは見落とされていたと。
0:11:35	いうところですかこれが誤記の 1 件になります。
0:11:42	続きまして 21 ページが東通地質の補足説明資料になります。
0:11:49	左側の補足説明資料の赤枠の部分に、キャプションのところには K2-13 孔コア写真、
0:12:00	とあるんですけども、
0:12:01	間違っって III 地溝のコア写真が貼られていたというものです。
0:12:09	これにつきましては資料作成の前のチーム会議の段階で、この A とす。ちょっと見づらいですけれどもこの左下に 33 断面という断面図。
0:12:21	が書かれてますが、ここと、若干北側に行った炉心直交断面、
0:12:29	どちらを使うかっていう議論をしていて、炉心直交断面の時に 3-1 孔のボーリングコアが出てくるので、資料作成者は当間どっちを使うかっていう議論をしていた時には 3-1 孔の写真を貼ればいいんだと思って、
0:12:44	間違っって貼ってしまったというものです。
0:12:49	続きまして 22 ページが、
0:12:53	これが先日、9 月 2 日の東通の津波の審査会合、
0:12:59	写真になります。
0:13:01	御短期地すべり地形のための御不地すべり地形前の地形を復元するための音探記録の結果になりますが、
0:13:12	左の方に誤りの方に 147 測線と書いてまして測線は正しいんですけど中に貼られていた記録が 146 測線、
0:13:24	ものであったというものになります。これ、同じ誤りが鳥栖三つ、3 次 23 ページ 24 ページと、
0:13:32	貼られている江藤記録が違うというものが、藤さん、三つあります。
0:13:38	これにつきましては、もともと、
0:13:41	出典元の調査記録の測線の結果をもとに、
0:13:47	海底地すべりの復元地形を検討しておりますので、これにつきましても審査資料上の誤りで実際の解析、
0:13:56	要は影響ないということを確認しております。
0:14:02	続きまして 25 ページが女川の本体審査の机上配付資料。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:09	になります。
0:14:11	こちらにつきましては1部分ですね1箱分だけ、写真が上下に貼られていたというものです。
0:14:18	こちらにつきましてはこの猪調査報告書の画像のちょっと並びが悪くなかったので、
0:14:25	資料作成者が見た目を整えるということで1箱ずつ切り張りをして資料作っていた時に、
0:14:33	ちょっと原因がわからないんですけども1個だけと上下、
0:14:38	の者数を反転してしまったものは張りつけてしまったというものです。
0:14:44	最後はこれ、女川の本体審査の地質の机上配付資料。
0:14:49	ですけども、26ページですね。
0:14:52	これも単純に違う深度の絵と写真が張られていたという、そういう事例で、以上9件になります。
0:15:12	12ページに、毛布
0:15:17	していただきまして
0:15:19	最後再発防止策。
0:15:22	となります。
0:15:25	独自置数で
0:15:29	ぴか、抽出した原因に対して、
0:15:35	再発防止策、
0:15:36	すいません
0:15:39	日吉堀町及び女川2号の本体で、見つかった誤りにつきましても、基本的な原因としては今回の特重地質の誤りと同じく
0:15:50	原因は同じであると考えておりまして、この
0:15:55	女川の特重の再発防止策が
0:15:59	その他の事例についても適用できると考えて再発防止策を考えております。
0:16:07	12ページ文字で書いてるんですけども、わかりやすい図表が、図が13ページ14ページ。
0:16:15	に記載してありますのでそちらで説明をさせていただきます。13ページがコア写真のチェック例。
0:16:22	14ページが音探記録のチェック例ということで

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:26	具体的な事例を、これをですね、社内の品質保証文書の添付書類に入れて、画像チェックに対してこういう点を留意してチェックすることという、再発防止策を作る。
0:16:41	を作る予定、予定というか作っております。
0:16:45	まず、13 ページでいきますと右上に青い箱書きのC-1C-2、C-1 というのが資料作成時のルールになります。
0:16:58	青いところですけど画像拡大による確認の例というということで、資料作成中の作業や出展者のコア写真に振動が併記されていない場合、
0:17:06	の確認作業ではディスプレイ上で、画像を拡大するなどしてコア箱に記載の情報を確認するというので張りつけ先と、
0:17:16	コア箱の公明であるとか進路が正しいかというのを資料作成時、或いはチェック時に確認をするというのが一つです。
0:17:27	もう一つ真ん中にC-1 というのがありますが、
0:17:32	当間。
0:17:33	できれば報告書、これから資料作成するときに、コア写真に進路が調査報告書ですね、2のコア写真に振動をあわせて併記されている場合については、
0:17:45	画像だけを切り取るとまた誤りが発生するので、ちょっと見た目は悪くなりますが、この進路も合わせて転記するという、資料作成ルール。
0:17:57	にしようと思っております。
0:18:00	続きまして真ん中の緑のC-2 チェック時の留意点ですけれども、印刷物によってチェックをする場合の例として、
0:18:11	作成資料等資料、出展者のもとの報告書を横並びにして、コアの進度や特徴的な模様ひび割れを確認すると。
0:18:24	あと最後が左側の黄色のC-2 として、この写真の場合については柱状図と見比べて衛藤最終確認をするという
0:18:33	そういうルールを定めております。14 ページも同様の内容が音探記録に記載をしております。
0:18:43	す。
0:18:45	14 ページですね、すいません、12 ページに戻っていただきまして、
0:18:51	今の右側に再発防止策のC-123 と記載したものになります。最後C-4 としまして審査資料の品質確保の重要性について教育を行って、
0:19:04	意識の向上を図ると。
0:19:06	いうことを考えております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:08	東野号機 101 メートルという震度の号機につきましても 3 番と 4 番の
0:19:16	教育、 I C E A 等、
0:19:19	ルール化をすることによって通す不正、
0:19:23	体を防げるるものと考えております。
0:19:30	リードの二つ目になりますけれども、今回の再発防止策及び審査資料の品質確保の重要性、
0:19:37	につきましては定期的に教育を行って、意識の向上を図る、維持を図っていくということとしております。
0:19:47	最後 15 ページ目にまとめ、
0:19:51	が記載されておりますが内容は繰り返しになりますので省略させていただきます。
0:19:57	説明以上になります。
0:20:01	はいありがとうございました。そうしたらどうしようかな。
0:20:04	まず機能グループから何か、
0:20:07	確認したいこととかあれば、
0:20:10	行きますかそれとも、
0:20:13	ちょっと
0:20:14	私の方からですねまずちょっと全体的な話としてですね、
0:20:19	もう少しですね
0:20:21	何か系統だって説明をして欲しいんですね。というのは、今回ね例えば主要構成を見ていくと全体概要という、
0:20:29	2 ページ目の話がありますけれども例えば三つ目ね。
0:20:34	が、三つ目のポチの中でですね、外観による識別が難しい画像等って書いてあるんですけども、
0:20:41	これ多分肝なんですよ。今回何でこう間違えたんですかということなので、本来そのどういうものがそのチェックの対象になっているんですけども、地震津波火山がいっぱいありますよねと。そういう中の資料を見たときに、何が、
0:20:58	ミスを起こしやすい同種同類のミスを起こしやすいものだったのかっていうのをまずはこれ抽出するんじゃないのかなと思うんですけど、その結果ね、そういったものについてはきちんとチェックをして、
0:21:09	今までのそのやり方で十分だったのか、もしくは、実はチェックのやり方が駄目だったのか、本当はできていたんで、ちゃんとルールはあったんですけどもそこは、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:20	実は作業者がサボってしまったのか。
0:21:25	いろんな多分要因があると思うんですけども、そこがね何かあんまり分析できてないんじゃないかという気がするんですよ。
0:21:34	そこは実際にはやられてるんですか。
0:21:39	当間、簡単に書いてますけれども
0:21:43	基本的には画像、先ほど地震動のは形であるとか、スペクトルのところで例示しましたけれども、基本的には画像見てそこのチェックをして
0:21:57	正しいものが張られているというのを確認できています。いると思っ てます。今回間違っていたのは降灰シミュレーションとかも入れてますけれども、画像の中に全く露頭の写真とかもですね、
0:22:09	どこのものがわからない判別できないものについて資料作成者が間違 って作るのは、たまにあると思うんですけど、そのチェックが前、
0:22:19	抜けているというか機能していないというところを確認しております。 はい。今ね、ご発言があります、機能していないって言ったところが、 ルールはあったんだけどそれが適切に働かなかったのか、もう少し その、
0:22:32	工夫をした方がよかったのか。
0:22:35	もしくはその作業者としてですね本来やるべきことができていなかった のか多分そういう本来分類があるわけじゃないですか。
0:22:42	そこがないと、何をその手当したらいいのかっていうところにね、結び つかないわけなんですよ。
0:22:49	そこをねしっかり書いて欲しいんですよ。
0:22:51	今回のミスというのはそもそも何だったのかと、そこのスタートから見 たときに、今申し上げたような、その分析があって、そうすると見なき ゃいけないというか、チェックをしなきゃいけない部分というのは、こ れとこれとこれでしょうというのは抽出されてきて、
0:23:04	それがまずはきちんとねできてるかどうかというのは、別ルートで見ます と、一方でその品証体系としてそのチェック機能が働いてる働いてない っていうところは、ツールが悪かったのか見方が悪かったのか意識が悪 かったのか、多分いろんな分析ができるので、
0:23:17	そこのどこを改善すべきだったのかっていう対策とセットではないと ね、なかなかこれ

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:24	何か、すみません私がこういうところかもしれないけどこういうなんてあんまりやったらやったり、に通じちゃうんで、そうしたくないわけですよね。
0:23:32	なので、ある程度のね、皆さんとしてできることはや、やりましたということをしかりと表明してもらわないといけないと思ってるんでしょう。それがちょっと何かあっさりすぎてるといとか、言葉を丸めすぎてるような気がしますね。
0:23:45	例えばですけど、5 ページ今回審査の誤りって出てきますけれども、冒頭で出てくるんですね、審査資料って書いてあるじゃないですか。
0:23:55	一体じゃあ審査資料って何なんですかと。
0:23:58	これ申請書は見たんですが見ないんですか。
0:24:02	審査会合資料のパワポを見たんですか。
0:24:05	どの範囲をご覧になったのかっていうのがまずわからなかったりするので、こういうところからですね正確に書いて欲しいんですよ。例えば、二つ目の矢羽根を見るとね。
0:24:14	今度は資料集って括弧がついたりするんですよ。同じものなのか違うものなのか、そこもちょっとよくわからない。
0:24:23	最後四つ目の矢羽根のところの、パネラーと書いてあってその他の動きがなくってというのはその他の動きって一体何なのか。
0:24:32	こういうね、やっぱり正確に書かなきゃいけないところはしっかり書いて欲しいんですよ。
0:24:37	この資料構成もそうなんですけれども、結局さっき言ったみたいに今回起こったものがどういう事象で、それはどういうその要因に基づいてきたんですか。発生したんですか。
0:24:49	というような順番に並べていった方がよくないですかね。
0:24:52	その上で他の資料への誤りとかね、他の資料の誤りというんですけれどもそれはこれもですね、どっかに、ごめんなさい。ちょっと前後して恐縮ですけど、2 ページ目に戻ってもらうと、
0:25:03	上から下から二つ目のポチですね。
0:25:07	これもね他の資料への影響がないことを確認した。
0:25:10	これは多分、
0:25:12	言いたいことは、基準適合性にあってねその判断に対しての影響があるかないかというところ我々重要なんだけど、そこまで白黒はつき

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	りしないと、じゃあ審査結果を見ているときに、たまたまセーフだったのがセーフじゃなかったのか。
0:25:26	全くその判断を及ぼさないところの間違いだっただのかどうかってこともわからないので、そこはね、正確に書いた方がいいんじゃないかと思います。
0:25:36	すみませんまた、5 ページ 6 ページあたりに戻っていただくですよ。資料作成段階品証チェック段階とあるんですが、これは先ほど申し上げた通り、
0:25:46	ルールというものがあって、左側から見ていくと、方針決定からずっとあってですね。
0:25:55	資料作成者がやることは書いてあるんですけども、
0:25:59	コア写真を張りつけてチェック者、
0:26:03	記載が正しくされていることや、画像の保護所から正しく張りつけて、
0:26:08	貼り付けされていることを確認と書いてあるんですけども、
0:26:11	一体今回はどこで見逃したんですか。
0:26:15	ここで見ここでも見つからなかった。さらに、
0:26:18	次のところを見るとですね、定められたチェック項目に基づきって書いてあるんですけども、ここはじゃあ、
0:26:25	資料チェック者と同じことを見てるんですか、それともね、やっぱり総括責任者だったり、事務局なんで、そうではない、もうちょっと別の観点から見られてるのか、同じことを見てるのか、その辺もね、正確に書いた方がいいと思うんですよ。
0:26:37	例えば今回のやつも、資料チェック者も見逃しました。あとは、総括責任者と事務局でも見直しました多分そういうことがないと、抜けてこないわけですよ。
0:26:47	ただし、9、
0:26:49	その中でね、誤りの発生経緯のところに書いてありますけれども、
0:26:55	これは
0:26:58	チーム責任者のところに書いてあってコア写真の間違いに気づかなかって書いてあるんですけども、じゃあ一体ね、コアチーム責任者の方っていうのは、どこまで確認されるんですかと。
0:27:09	まずはその資料作成者資料チェック者っていう、
0:27:13	方々は多分、ほぼほぼみんな見るわけですよ、まずは。
0:27:17	ただ、責任者の方がね、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:20	画面が違うんですか、合ってるんですかっていうところで本当に真面目に見るんですかと。これ多分軽重つけてんじゃないすかね。本来は、
0:27:28	例えばロジックがおかしいとかね。
0:27:31	事務局は、もしかしたら誤字脱字を見てるのかもしれないし、全く関係ない第三者が見てねこの話は、ストーリーとしてわかってるのかと、論理構成がちゃんとできてるのかとかね、普通は何かそうやって見るような気がするんですよ。
0:27:42	その辺りの役割分担がね、もうちょっとしっかり書かないと、単に何か
0:27:49	気がつかなかったんで、抜けてきちゃったんですよみたいなことが書いてあるんだけど、
0:27:53	そこはね、やはりそれぞれの役割に応じたチェックの項目とかやり方ってのはあるはずなので、
0:28:01	あるんですよね。
0:28:04	はい。ありますちょっと、
0:28:06	ちょっとわかりづらいんですけどチーム責任者の原因のところについてはコア写真の確認がおろそかになったということで、基本的にチーム責任者でそこまでの
0:28:17	資料をチェックしません。
0:28:19	岩田さんおっしゃられる通り資料の論理展開であるとか資料構成が合ってるかどうかというところですよ。それに対して総括責任者事務局については写真のチェックがおろそかになったということで、品証上
0:28:30	チーム責任者がそこまでチェックをしろっていう決まりにはなくてこちらの資料チェック者及び総括責任者、事務局の方でチェックをするというそういうルールになっております。
0:28:43	なので例えば今回のそのは写真の貼り間違いでいくと本来は誰と誰と誰が見ていて、その中で何が、
0:28:50	全部抜けてきちゃって、資料になっちゃったわけでしょうけれども、その中で、じゃあ、実際のエラーは何だったんだ。
0:28:59	何だったんですかっていうところの、やはり深掘りをした上で、
0:29:04	原因と対策。
0:29:05	対策っていうんですかね、対策の方に、
0:29:10	つなげていかないとはですね、ここも、その原因のところにはですね、例えばですよ、例えばですけど、市長八尾有賀にいて、わかんなかったみたいなことが書いてあるんですけども、これはね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:20	そういうものを見ていけばよかったというルールになっていたんですかと。逆に来たくなるわけですよ。そうではなくて、ファクト例えば実際に見比べてチェックをするってやり方もあるでしょうしいやそうではなくて、
0:29:31	ある程度ね、
0:29:32	抜き取りで見てるんだったら抜き取りで見てるのかもしれないし、そこはね本当に、どういうやり方をしていてそのやり方が、これまで通りでいいのか悪いのか。
0:29:41	これね、
0:29:42	これはもう皆さんに釈迦に説法かもしれませんが、全数検査なんて、世の中 100%ね、みんなこの会社ってやってるわけじゃないわけですよ。当然のことながらある程度のその段階を踏んだり、
0:29:54	レベルに応じて何を見ているかっていうのをやってるわけなので、単にその
0:29:58	抜けてきてしまうってのはそれしょうがないことなんだと思うんですよ。ただし、今回みたいなこと起こらないためにじゃあどこまでできるんですかっていうことをちゃんと書かないと、
0:30:09	よくよくあるパターンでいやチェック者 1 人ふやしましたとかそういう話にしかなくてこないわけですよ。
0:30:15	なので、ルールが悪かったのか。
0:30:20	谷。
0:30:22	ルールはできていたんだけど、見逃してしまったのか。
0:30:25	それは人の教育の話ですよ。
0:30:28	なのでその差別化をしないと、
0:30:31	本当に全員で同じものを全部写真か何かね。一次データと見比べてチェック性みたいな紙にはしたくないわけなので、そこはちゃんと書いた方がいいと思う。
0:30:45	というのは特に 8 ページあたりに書いてあるところですかね。
0:30:51	矢印のところですね、写真のチェックがおろそかになった、チェックルールが明確になったって書いてあるんだけど、おろそかってのは一体何なんですとか、
0:31:00	明確でなかったってのは、じゃあったんですかなかったんですかってことじゃないですか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:07	はい。衛藤ですちょっとその辺、詳しく確認いたします。チェックルールが、
0:31:14	明確でなかったというのは左側にデービーのチェック項目ということで六つ挙げてますけれども、この下の段階にチェック方法というのはチェックする単位であれば
0:31:27	句読点ごとにチェックをすとか、数字は全部一つチェックをすとか単位をチェックするっていうものがあるんですけども、この画像出典につきましてはもう、
0:31:37	この運用に誤りがないかというそこだけのチェック、記載しかなくてですね、チェックするものも基本チェックはして、ほぼ、もともとの出典の報告書と比べてチェックはしてるんですけども、
0:31:52	細かいところに目が行かずに誤った写真になってることに気づかなかったというルールはあるんですけどその実効性がうまくいかなかったというは、分析をしておりますそれで今回、
0:32:07	具体例を示してチェックがうまく機能するよという対策を考えてます。
0:32:14	はい。そうすると例えば引用元が、何の何行のコアですよっていうことだけしかり書いてないんだったらそれは多分それで不十分なわけですよ。
0:32:22	もうちょっとやはりチェック項目としてふやさない見つからなかったかもしれないし、あそこはどうされるんですかっていうことに繋がってくるので、この辺りはね、ファクト正確にやっぱり書くべきだと思いました。
0:32:36	大ざっぱに言うとねそういうことなんですけど結局そのきちんと、今回の事象が起こった原因っていうのを、ある程度具体的に、
0:32:44	分析をして、何が足りなかったのか。
0:32:47	もしくは十分にあったんだけど単に機能しなかっただけなのか、そういう人の問題なのかと、教育訓練だけ白尾なおるのかどうか、いやそうじゃなくてチェックリストをもうちょっと充実させないと見つからなかったんですかみたいなね。
0:32:57	話をしっかり分析をしないと、なかなかこの再発防止策こういうふうにやりましたよっていうことに対してわかりましたよっていうストーリーが成り立たないんだと思うんですね、今 12 ページに書いていただきますけどね。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:09	これも公開であるのはしょうがないんだけど、実際に審査会合のところですね、いやこれ石渡委員からコメントがあった時にいや、ちょっと。
0:33:20	絵が小さくてと、みたいな話があって、それはそんなの当たり前だろうみたいな話も言われたんだけど、今更それをその再発防止策でね、ディスプレイ上で拡大するみたいな書くというのは、僕はちょっとね、
0:33:32	何かお日に油を捨てたんじゃないかなという気もするし、
0:33:35	実際にそうするのもかもしれないですけども、ただそれ
0:33:39	明確に比較対象がね、ちゃんと比較できるように、
0:33:43	ちゃんとやりますと、ちっちゃくちっちゃくてね見ててなんかわかりづらかったんでそれはわかりませんでしたっていうのが、今回の原因であるそれ当然拡大するの当たりの話なんで、それは明確にその数字で比較をするとか、具体的に何を比較するのかっていうのをちゃんと書かないと、
0:33:57	これもそんなの、そもそもやるのは当たり前じゃないかと言われて終わっちゃうかもしれないし、こんなじゃ足りないよって言われるかもしれないので、
0:34:05	そのあたりは皆さんしっかり考えた上でね、その再発防止策ってのは書いて欲しいと思うんですよ。
0:34:13	で、
0:34:15	今回調査をした結果他にもありましたよというのがあって、東通はねまだ審査中ではあるものの、津波についてはつい最近あった介護の話が出てきていて、
0:34:25	この海底地すべりのところというのは結構ね、何回かやりとりしていただいて議論になった場所でもあるので、
0:34:32	ここもね、さっき申し上げた通り、
0:34:37	解析の影響がないっていうことがメインではなくて、結果としてね、
0:34:42	そうなのかもしれないんですけども、判断としてね、使われるかどうかというところが重要であって、そこをしっかりと書いた上で、最終的に解析結果にも影響がありませんよっていう、論理立てにしてもらわないと。
0:34:55	結果よければ何でもいいんじゃないのって言われんいおっしゃってるようにも聞こえるので、そこはね正確にやはり書くべきだと思う。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:04	あと深さがね、
0:35:06	数字が違っちゃったっていうのは単なる誤記のような気がするんで、あそこはなんか別戻してもいいような気がしますけどね。
0:35:13	5期については別に駄目じゃない、駄目ですよと言っていない。それも、
0:35:18	にして起こり得るところかもしれませんが、あとね、一つだけわからなかったのは何か写真がね。
0:35:24	上逆になったっちゃうのは何ページでしたっけ、25 ページか。
0:35:28	これはね、何か今ひとつ、
0:35:30	この説明で何がどうなってるのかがぱっと見わかんないんですけど、もう少し何か丁寧にご説明したくないすかね。
0:35:39	というのもこれもね皆さん苦労されてるかもしれませんが、結局、写真がどうなってるのかっていうのをですね左右比較しても、結局何だかよくわかんなかったりするんで、
0:35:48	具体的に何がどう間違えてるのかっていう、静脈ってのは一体何のことなのかっていうのがね、多分、
0:35:54	来説明を受ただけではわかりにくくて、何かと何かのそのポイントを見て、比較をしないとね、こうなってるのかっていうのを、ようやくこう、
0:36:04	言ってみれば一番上のコアとしてのコアのところの関係を見ていると何となく、逆というのはこういうことを言ってるのかなってのはあるんですけど、日本語ではそうなのかもしれませんが、どうなっちゃってるのかがね、ちょっとわかりにくい。
0:36:18	ということです。すいません。あんまり長くしゃべってもしようがないので、
0:36:22	もう 1 回だけ、繰り返しになりますけれども、
0:36:25	今回の誤りみたいなものが、何が原因で起こったのかということは、ちゃんと深掘りをした上で、その原因についてはどうだったのかと、それはもう品証上の
0:36:36	対策を改めて講じなければいけないものなのか。
0:36:40	いやそうじゃなくて単なる機能しなかったことなのか、チェックリストが十分じゃなかったのかそういったね、分析をしていただいた上で、足りなかった部分についての対応をやりますと。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:50	全体的には別にできていたものと思うんだけどもそのあたりがね、やはり足りなかったので他にも出てきました。
0:36:57	ただしこれらについては、いわゆる基準適合性を判断する上での、
0:37:02	トリガーにはなってませんでしたっていうのは、単なるプランをおまけですよね。
0:37:06	我々としてはやっぱり間違っただこと自体は、
0:37:10	まずいなというふうには考えているので、
0:37:13	影響ないからいいんじゃないかというふうにとられないような書きぶりにした方が私はいいと思いました。
0:37:18	ちょっと大ざっぱに、
0:37:20	しつこく言いましたが、
0:37:22	何か、
0:37:23	確認をしていきたいところもしくは審査チーム側から何か補足したいところあればお願いします。
0:37:37	すいませんちょっと質問だけさしてもらいたいんですけど、
0:37:43	8 ページに、レビューのチェック項目ってのが六つあって、その六つのあるうちの5 番目の
0:37:51	出典も等からの引用に誤りがないかっていうのがあるんですけど、
0:37:56	これってすみません具体的に言うと、
0:37:59	御社のその分掌規程の中の、
0:38:02	何に定められているものなんでしょう。
0:38:11	はい。東北電力伊藤ですQMS 文書の社外へ提出する報告書の作成確認要領という要領があります。要領があるので、そちらにこの項目と
0:38:23	チェック、
0:38:24	この項目が記載されていて添付2 チェックシートが、
0:38:30	ありましてこれ、この項目ごとにチェックをしたかどうかというチェックを作ると、六つの項目ごとにチェックシートがある。
0:38:38	と、一つのチェックシートに、この六つの項目をチェック、確認したかという。
0:38:43	チェック項目になっているというものです。結構項目自体、チェックシートのチェック項目自体がこうなっている。
0:38:50	その通りです。これが、これに何か一つずつチェックをしていって、EAM 強ければ良にするってことそういうことですか。その通りです。
0:39:01	今回対策として、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:05	例えば
0:39:07	12 ページに、
0:39:09	椎野さん、椎野丸さん、再発防止策の、
0:39:13	椎野丸さんで、
0:39:15	具体的なチェック方法とあわせて社内品質保証ルールに記載するってあるんですけど、
0:39:21	ここで言うて後の品質保証ルールっちゅうのは今言われた容量の話のことですか。
0:39:27	その通りですこの無痛についてチェックするよにというのが基礎底に書かれてまして、そこに画像については特に注意をしてということに記載した上で、
0:39:39	13 ページ 4 ページを添付書類として添付するというそういう、1034 のチェックの
0:39:47	やり方も載せる。
0:39:50	と考えてますはい。
0:39:53	はい、わかりました。はい。すみません等ございます。
0:40:00	あ、すみません長井ですけども、地質の方で特に確認したいんですけど、
0:40:06	出て介護の支援でかなり、女川と東通と同じ日に会合をやると。
0:40:12	いうことをやりましたけどそういうことが原因の一つになってる可能性はないんですか。つまり負担が余りにも上がってしまって、チェックがおろそかになっちゃう可能性はないんですか。
0:40:26	東北電力伊藤です今回の事象も含めてですけれどもそれなりに人の社員であるとか、コンサルさん等の人を動員して衛藤期間を決めてやっていますので、
0:40:41	それが原因になったという、
0:40:44	分析はしておりません。
0:40:47	はい、わかりました。あとは、地質だけじゃないですけど、ヒアリングは何回か資料を出していただいているわけですよね。そのヒアリング審査会合の間に、
0:40:59	再度チェックしたところ見つかる。
0:41:01	いう可能性もなかったんですが、実際の作業上の可能性として、
0:41:09	他電力イトウです確かに
0:41:12	多くの資料がヒアリングで出させていただいて会合のとき、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:17	まだ今2回ぐらい、タイミングはヒアリングないし会合のタイミングあるんですけども、新しく追加した部分のチェック、
0:41:27	に収支していて1、一番最初の出している資料についてはチェックをしていない。
0:41:35	というところが実情です。
0:41:38	つまり最初にチェックされた後はもう2、2度目のチェックがなされていないなかったっていうのは事実なんですか。
0:41:46	はい。会合についてはそうなってまして次のタイミングとしてはまた、まとめ資料であるとか、
0:41:53	そういうタイミングまで、
0:41:56	1回1回、すべての資料は、チェックはしてありません。
0:42:03	わかりました。あと最後にいって女川東通という観点で、女川で出ているのは敷地内の話だけで、東通は周辺津波と、
0:42:13	あと地震、どうか地震の地下構造で出てるっていうことをあるんですけど、逆に女川のこの分野本当に大丈夫だったんですか。
0:42:24	先ほどの回答とも一緒にありますけど女川の方が審査の範囲も広くてボリュームも多いんですけども、まとめ資料の時に改めてしっかりとチェックをしているというのもあって、
0:42:36	確認はすべてしておりますけれども見つかったのはこの2件ということです。
0:42:44	はい、わかりましたナガイから以上です。
0:42:53	規制庁の藤川です。
0:42:55	京大しかもちょっと2点ほど事実確認させてください。この8ページの方、お願いします。
0:43:04	8ページですね、
0:43:07	ちょっとこれはレビューのチェック項目の5ポツすでにこの出典元となる図書等からのようにあまりがないかっていうチェック項目あると思うんですけども、
0:43:17	そこに結構右の文章を読むとチェックがおろそかになったとかチェックルールが明確でなかったってあるんですが、
0:43:24	現状はやっぱり何かこういうレビューのチェック項目あるにもかかわらず、
0:43:29	引用に誤りがないかってのは確認はしてなかったっていうことなんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:35	これは何か、さっき岩田がおっしゃった、言ったようにですね、原因分析として今まで受従前だったのかなってのはちょっと気になりまして、
0:43:46	起こってその遅刻、すでにあつたのに何かして確認しなかったのかってちょっと思ったんですけども、いかがですか。
0:43:54	電力イトウですチェック項目としてありますので当然チェックをするにあたって当資料のチェックはしております。
0:44:02	しておりますがこの切り貼りんときに例えば上の部分だけを見て安心してしまって下の部分を見ていないとか、
0:44:11	チェック者がチェックはしているんですけどもその写真が違うものだというところに気づかなかつたというところですよ。
0:44:19	わかりましたちょっとそこら辺がちょっと、
0:44:22	わかるように、また資料を追記いただきたいんですけど、9ページの方の、
0:44:28	パワーポイントを見ますと、左の資料作成ルールでその資料チェック者と、
0:44:33	統括責任者って見ることも何が違うのかって言うのを、例えばそのまあ、それさっきまた言ってましたけど、
0:44:41	統括責任者って、こんな細かいところまで見るのかなとか。
0:44:45	ちょっと思いますし、その写真のチェックってのはどこまでやってて、ちょっと再発防止として、どんだけ、
0:44:52	今後、つい、そこのチェックを強化するのかっていうところが、
0:44:57	わかるようにすればちょっといいのかなと思いましたがどうもいかがでしょうか。
0:45:04	東北電力伊藤です。実質的にはその先ほどの社内のQMS文書でのチェックの視点というのは、
0:45:14	6項目一緒ですので、実質資料チェック者と当事務局で見ているチェック項目というのは同じになります。
0:45:24	ただ、当資料チェック者の方が
0:45:30	現実には細かいところ、一つ一つですね資料の作成を見ていて、この9ページのところにも書いてますけれどもチェックはしてるんですけども、コア写真の文字が小さくて見えないであるとか、コアの色調や割れ目が似ていて違う写真が貼っているというところに気づけなかつたという
0:45:49	ところですよ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:53	はい。総括責任者事務局も基本チェックをしなければならないという、立ち位置にありますのでちょっとそのチェック方法についてはこれ、今日のアドバイスを
0:46:05	踏まえて検討させていただきたいと思います。以上です。
0:46:09	規制庁藤川です。わかりました。
0:46:11	今の説明聞くとですね、今度やっぱ6ページの、
0:46:15	これを見るとですね、誤りの発生原因の一番下の矢羽根とか見ると、
0:46:20	一番下の矢羽根読み上げるとその資料作成チームに資料が社内品質保証ルールに基づき作成されていることを確認し安心し、
0:46:28	ってあるんですけど、
0:46:30	これ見るとそのダブルチェックの意味が、
0:46:33	何かないなと思ってしまった要は全員のチェックの方でしっかり見てるだろうから、この品証チェック段階では、
0:46:42	なくてもいいよねというふうに思ってたっていうふうにあると思うので、
0:46:46	そこについて、今回の不適合の原因っていうのは、ないというふうにお考えですか。
0:46:54	東北電力伊藤です。
0:46:58	講師の確認が甘くなったという決して見なかったというわけではなくて同じく同じ視点でチェックシートのチェックのレビューの項目としてありますので確認はしないといけない立場にありまして、
0:47:12	実質見ていたというところです。
0:47:22	あとですねあとさ、すいません再発、これに対する対策としては、先ほどの教育、審査資料の重要性について教育を行って
0:47:33	画像であっても、しっかりと何かあってもというのは、あれ、すいません、訂正しますけども画像についてもしっかりとチェックをするんだ、重要なんだというその教育をすることによって層厚の、
0:47:47	チェックが甘くなるというのを防ぐことができると考えてます。以上です。
0:47:52	規制庁藤川です。わかりましたちょっとその辺ちょっといろいろわからないところがあるので、
0:47:58	またちょっと資料を追加していただいた後ですねもう1点だけ、水平展開の範囲なんですけれども、今回その外観等による識別が難しい写真に

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	おいて、同様の間違いはないかっていうのを見た、ということだと思うんですけど。
0:48:14	ですね、例えば、これも8ページですかね。
0:48:19	8ページのやっぱり上のポツの文章を見るとやっぱり出典元となる図書等の引用に誤りはないかって、出典元からの引用っていう画像に限らないわけで、
0:48:31	例えば文章とか、
0:48:33	特にやっぱちょっとさっきあったのはトーン自身はとかですねオートスペクトルとかの数値チェック数値計算結果とかも、あまり言わないのかなというふうに、ちょっと気にしてたんですけども。
0:48:45	そこについては先ほどの説明の中で、
0:48:48	外観で識別できるっていうことを、どっかのページで言った10ページですかね。
0:48:55	10ページの資料の、
0:48:58	等を見ると自己食う、地震の吐けとか地震応答スペクトルっていうのは、
0:49:06	識別可能なので、正しいかどうかは離れていると、いうことになってますけどもここっていうのは、もう何かあれなんでしたっけその水平展開は。
0:49:15	したんでしたっけそれもせずに、こっちはもう大丈夫だろうということで、確認してないっていうこと。
0:49:21	どっちなんですかね。
0:49:24	すいません
0:49:27	画像とか盗取図書図書とか論文からの引用も
0:49:32	ありましてその論文とかにつきましては紙資料の中で正しいものが貼られている、ここの、なので地震動は形とかオートスペクトル等の対象事例と同じものと考えてます。
0:49:47	はい。何でこの期にしたかっていうとですねやっぱり8ページのレビューのチェック項目の4ポツとか見ると、数値計算結果に誤りがないかっていうことが書かれてるんですけども、
0:50:00	こういうのって品証チェック段階でどう確認されるのかなって。
0:50:05	何か、
0:50:06	結構難しいそうだなっていうふうに思うんですけども、こうやって本当に確認できるものなんですか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:14	東北電力伊藤です数値計算につきましては外部に委託してるものについて、
0:50:21	報告書のインプットデータを含めて解析が正しいかどうかというのは、我々委託先に行って解析のインプットデータとかも全部チェックしております。
0:50:31	研修、委託の検証を上げるにあたってその解析結果が正しいっていうそのチェックをした上で研修をしておりまして、
0:50:39	ここで言う数値計算してる場合計算結果に誤りがないかというのはそのこの、
0:50:44	クロスチェックと呼んでますけどもクロスチェックのエビデンスをもとにその結果が、審査資料に正しく書かれてるかっていうの確認をしているというそういう内容になります。
0:50:56	資料フジカワです。
0:50:58	ちょっと今の話聞いて思ったのが、例えば今回、
0:51:05	一つの原因としてその資料作成者が報告書から審査資料への転記に
0:51:11	誤りがあったっていうことだと思うんですけども、
0:51:15	今のお話聞いている等、数値計算についてはそういうのがないっていうふうになるんですかねそれでも、例えば、今回っていう画像の上下がひっくり返って張りつけてたとかも。
0:51:26	あったんですが、そういった状況の中で数値計算とかは、
0:51:30	ちゃんと正しいものが載ってるよっていう保証は、
0:51:33	あるんですかね。
0:51:37	東北電力伊藤ですその辺につきましてはもう、先ほど言いましたけども誤字脱字がないかというところで数字であるとか、単位というものが、誤りがないかというのは一つ一つチェックをする決まりになっております。
0:51:50	今回綾李が出てきた対象としてコア写真であるとか音探記録のように似ていてパッと見こう、
0:52:01	識別が難しいよくよく図付けを、図を見てみないと識別が判断できなかったものに対して誤りが出てきたと思っておりまして、
0:52:11	今回のなので数値とか号機については正しく正しく書かれていると考えてます。
0:52:22	規制庁藤川です。
0:52:24	わかりました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:25	ちょっとそういうところがちょっと気になったので、
0:52:29	資料ちょっと追加いただき、追記いただければと思いますコシカワ以上です。
0:52:34	今の件ね、先ほど私も申し上げた通りだと思うんですけども、結局最初のところのスクリーニングで、いろんなね分野のものがあるんですけども、今回の類似したね、事象が発生しそうなものは何かというのをちゃんと
0:52:47	やはりスクリーニングをしてこれとこれとこれが主なチェックの対象になりますよっていうのをね、まずは示すべきなんだと思うんですよ。その上で今藤川から指摘があったような、例えばこの数値計算の間違いというのは多分これまで他社でも何回かあったし、
0:53:00	符号のつけ間違えとかですね、桁数のそのセットを間違えましたとかねそういうのもあったわけですよ。そういう他社の経験なんかも踏まえていろいろとチェックリストっていうのは
0:53:11	整備をされてきてるのではないかと勝手に思っているんで、それもね、今回そのチェックの対象とするのであれば見ていただく必要あるかもしれないしスクリーニングの結果ね、対象になるんだったら見ていただく必要があるかもしれないけれども、
0:53:22	それないんだったらそう書いていただいてもいいと思います。あんまりね、全部できてますできてますと言って、将来また出てきた時にあれは何だったんだみたいになってもね、それもまた気持ち悪いので、
0:53:31	そのあたりある程度、今回のその発生原因については、対象を絞った形でやるというのは一つのやり方かなと思います。
0:53:39	あともう一つね前段であった質問の中でチェック項目の間の考え方なんですけども、私もさっき申し上げた通りこの6段階に6項目、6項目のそのチェック項目というのが8ページにあって、これをね、いろんな方々が共通で見るというのは私は間違いじゃないと思うんですがさっきもこれも申し上げた通り、
0:53:57	ただ役割によってね、そこから下の、細かく見るべきところというのをやはり細分化すべきで、だから、
0:54:07	例えばで言うと今の数値計算の話もね、実際に数値、委託先で出てきたチェックシートをちゃんと見て、チェックをするのか、もしくはそのチェックシートをチェックした結果をね、もう見るような人もいるかもしれないしそこはやり方あると。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:20	だと思っんですよね。ただそのあたりもね、どこの段階で間違えて、それが、要は最後までね、通らないっていう、
0:54:28	すり抜けてしまわないために何をすべきかというところに着目をしていただければと思うので、そういうようなね、観点で見えていただければと思います。
0:54:37	はい。
0:54:41	サトウで二つだけ。
0:54:43	やっぱりさっき話ありましたようにこの網掛けする領域をどの範囲まで網掛けするんですかっていうところが大事なんですよ。皆さんが今その間違いがありました。
0:54:53	ていうふうに報告してきた案件だとねボーリングコアとかさ。
0:54:58	津波の音波探査記録か、もう、こういったところしかないんだよね。やっぱり数値の話ってのはやっぱりそこはね、1件もない、本当にないのかっていうところはねやっぱりその、
0:55:10	今の話ありましたよね機疑わしくなるわけですよ。なのでその辺も含めてどの範囲までちゃんと網掛けして調べるかっていうところは明確にしてくださいと。
0:55:19	それからやっぱりこの1話ってね保安検査で皆さんも結構言われてるから、もう、
0:55:25	もう何かもう押し問答禅問答になるからねこの話やり続けると、どっかでピリオドを打たないといけないんですけどもやっぱり今日の資料見るとね私は検査官だったらやっぱり、
0:55:35	資料作成ルールってのはちょっとプアーだなと思っています。そもそもの御社のその資料作成のルールっていうのは、どんな流れでやってんのか、どんな体制でやってんのか、どこに人数をかけてるのか、何人かけてるとか、
0:55:50	教育訓練力量はどういう人がやっているのかみたいな、私だったらそんな落とし方でし調べていくかなっていうふうに思ってるんだけど、やっぱりここがちょっと不十分なんですよ、さらっと書いて、余りにも。
0:56:02	なのでここをちゃんと今、指摘皆さんからあったんだけど、ちゃんとまずはそこ書いていただいてっていうところがスタートポイントかなというふうに思っています。
0:56:13	大体その2点ぐらいですけど。
0:56:16	以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:19	はい。大体そんなところですかね。
0:56:22	よろしいですかね。
0:56:24	よろしいですかねというのをすみません何を言いたいかという、今もありましたけれどもあんまりこの話で、1日やっても、に終わりはないようにやら、やろうとすれば終わりがなし、
0:56:35	終わろうとすれば終わるんだし、品証の話っていうのはそもそも皆さんのね、責任でやっていただくというのが、我々もそう思っているんですが、あとはやはり審査資料間違えるというこれもいろんな会合でもいろんな人が言ってますけど、
0:56:49	結果に影響する可能性があるんで慎重にやってくださいよと。従ってその品証をしっかりやってくださいな、なんですけど、なので、
0:56:57	誤解をというかですねよく聞いている人たちが理解ができるような形で整理をしていただいた上でもう1回説明をいただく必要が、ヒアリングであるんじゃないかと思いますこのまま審査会合をかけた今みたいな話を
0:57:10	平場でしゃべられても困るじゃないですか。なので、ある程度ね、共通認識を持った段階で、さらに何か課題があればですね、会合で議論しようというそんな、
0:57:21	イメージでいるんですけどどうですかね。
0:57:23	よろしいですか。
0:57:27	東北電力の小形です。ただいまご指摘いただいたところですね、我々の資料ちょっとわかりにくい点多々あるかと思いますので、
0:57:35	要因の分析等ですか合意した上でですね、ちゃんと我々やっているべきところをちゃんとやっているところもしっかりはっきりさせた上で、
0:57:43	今回追いついていないところといったところもう少しわかりやすく、わかりやすく資料をしたいと思います。
0:57:50	何か補足あります。
0:57:54	以上でございます。
0:58:13	本店の方向かありますか、よろしいですかね。
0:58:18	特にございません。
0:58:21	あとはですねちょっと本日の議論を踏まえて、次いつぐらいにできるかというの見通しが立った段階です。事務的にご連絡をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:31	スケジュールの関係そんなところですか。あと聞いておきたいことはいいですか。はい。
0:58:36	じゃあそのようにお願いいたします。
0:58:42	以上で、品証関係の、
0:58:44	ヒアリングはよろしいですかね。
0:58:47	はい。どうもありがとうございますお疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。